

各地からの基調報告



和歌山県日高から
濱 一巳さん

こんにちは、久しぶりですね。僕もだいぶ頭が薄くなってきて、白くなってきました。皆さんの元気なお顔を見てホッとしています。

皆さんが日高へ来てくれなくなって、もう12年ですか。志賀政憲町長さんが今3期目、頑張ってくれています。あの町長さんが当選してくれてから皆さんとは疎遠になってしまって、今も相変わらず運動靴を履いて、上は仕事上背広を着たりネクタイを締めたりしていますが、白いスニーカーをマジックで黒く塗って革靴に見せかけて走ります。しかも、公用車を使わずにバイクで走っている。そういう性格の町長さんです。それまでは、日高で運動せないかんのに日高は何しとるんやと言う形で、皆さんに押されるような形で原発反対運動をしてきました。ある時は想像以上にばく進するような形で進んだときもありました。大阪の方、京阪神、和歌山の方たちに押される形で、運動ってどんなにしたらええんや、ピラってどんなに書いたらええんやという形で教えられてきたと思います。

久保さんの話を聞いていますと、その当時のことをずっと思い出すんですけども、半分以上忘れてきています。苦しかったときのことはもう大分、忘れてきています。今はもう、頭の中からは、「原発」、あのころはよく言われました「事前調査」、そういうものが頭の中からはもう消えてしまっただけで、その時に賛成・反対と分かれて、漁業組合でもそうだったんですが、町全体でもそうだったんですけど

も、何かもの言うとか賛成と反対とで意見があわずに、今はね、それがなくなったんですよ。あの頃反対派と賛成派という中でバンバンやりおうた仲でも、そんなもんこっち置いといて話ができるようになった。年月かかってましたですけどね。酒を飲んだ席では、「あのとき、こんなことがあってなあ」という話がポツと出ます。出ますけど、「もう、浜、あれも時効やしな」という。その当時は悪名高くてね。なかなか外も歩きにくかったですけど。推進派の方からね、「あれはもう時効にしたる」と言われてね。そういうこともあったんですよ。その当時は、皆さんにも迷惑かけました。「原発に反対していて、原発こなかったら、こんな過疎の中でどうしていくねん。原発こなかったら道もでけへんぞ。道路広してほしかつてもでけへんぞ。」よくまあ、推進派の方から言われましたけど。今の町長さんになって、まあ一回、日高町へ来てみてください。だんだん、だんだん、道も広がっていきます。ほとんど、触れ合いセンターという立派なものをつくりまして、日高町の志賀地区ですけど。そこを通過して海へ出てくる、日高町の主幹道路ですけど。ほとんど二車線になってきてます。広いところではもう歩道もついています。海の方へ出てみたら、港もできています。うちも立派な港を作っていただきました。港からズーッと、地元では湾岸道路と言っているんですけど、道路も大型の観光バスが来たら対向することもできんような道やったんが、その道もだんだん広がってきています。湯浅町、広川町、由良町、日高町、美浜町、御坊市が寄って道路を広くしようと、高速道路が山の中ズーッと御坊市まで行っているんです。だから、置いてけぼりに会うかわからんということで、ドライブコースとしてこの道を広くしようということで市町村長会議が決めているんです。何も、原発が来んかつても、今の町長さんが頑張っていて、今の道路を広くしようということで一生懸命やってくれています。うちの隣の小杭という

村でボーリングして、冷泉ですけどね、温泉を掘ったんです。温泉館という「満潮の湯」という名前が付いていますけどそこへ二階建てですか、建物として総工費約6億ぐらいかかっていると思いますが、立派な温泉館ができています。ボーリングを掘るだけでも、役場の職員の人に聞いたら、1億5~6千万円かかりましたと言うてます。通りがかりの人もちよと寄って帰ろうという形で、こんなとこ人が住んでんのかというぐらいの村が、今は人で、人で、土日とかになったら、800~900人、こないだの連休には千百何人、うちの前の道路で片側駐車して、ズーッと風呂があくのを待っているんですよ。そんなして風呂へ入って帰っていく。だいたい時間ほどで入れ替わっていきますけどね。皆が訪れてくれる村になりました。町長さんが大事にしている触れ合い、温泉にでも入って人と人が肌をふれあって、そんな変な感じじゃなしに。そないしてたら、何かわだかまりものうなってきた、裸のつきあいしてたらな、悪いとこが腹の中に残らん。そういうつきあいしていかなたら、賛成・反対いうて別れていたやつが一つにならんと言うことです。最初はね、わりと温泉というのは田舎の人、ちょっと敬遠してたんです。町の方の人たちは抵抗なしにどんどん利用してくれたんですね。日高町の人たちが利用してくれなんだんですね。「今日は寒かったから」言うて、方杭まで、うちまできてくれるんですよ。そないして、うちとことの温泉もかなり有名になってきて、町長さんのやっていること見てたら、もう原発の事前調査と言うことがだんだん、だんだん、遠のいていって、日高町の町をみんなが足を運んでくれるリゾートの町にしようという考えがあるんじゃないかなと思います。自分が温泉館の周囲に空き缶やゴミがこぼれていたら拾ってくれたりね。満杯になった駐車場の交通整理やってくれています、町長さんがね。「町長さん、そんな若いもんがやった

らええのに」と言うて「若いもんは仕事をしてくれたらええんで、僕がしてたらええんですよ」と。体操帽かぶってきてね、スニーカー履いてきてね、交通整理して、「いらっしやいませ、有り難うございました」言うてね、町長さんがそんなんですよ。そんな姿を見てたらね、「ああ、一生懸命やってくれているなあ」と思います。

あれから、僕らも一生懸命に反対運動やったのが14年、おやじから受け継いで14年ですか。仕事もほって、もう、一生懸命に原発反対運動をやりまして、こういう風な形になってしまいました。その間、遊んだ分を一生懸命働かな言うて、私は漁師をやってますんで、一生懸命釣りで働きました。その頃ですかね、太刀魚がよく釣れましてね、太刀魚釣りを一生懸命やって、7、8年間ようけ水揚げさせてもらいました。14年間遊んだ分を取り返したぐらい、何もかも忘れて一生懸命働きました。その間に、だんだん、だんだん、町民の頭の中から原発事前調査というもんを忘れていって、「もう、浜、あんな話は時効や」とか、「もうこれでええんや」と。「あんな東海村のJCO事故とか、若狭の方で事故あったり、あんなん見てたらなあ、やっぱり、お前らの考えが正しかったんや」と。「温泉館ができて、日高町はこれでええんや」という風な話もしに来てくれます。うちへもこの頃、立ち寄ってくれて、一杯飲みながら話をするんですけど、「これで日高町よかったんや」と向こうの方からしてくれるようになりました。日高町の方はそんな風になってます。そんでもねえ、若狭の方から、美浜や各地からこられると言うことで、かかえておられるかた達がどどういう気持ちで過ごされているのかなということをお聞かせ願えたらという気持ちで今日は出席させていただきました。また、時間があれば、日高の土地を訪れてみて下さい。



「あなたは何の電気が好きですか？」

大阪 富美枝

闘いが終わった後の和歌山日高と三重芦浜。日高には久保さん達と一度行ったことがあります。あのとき泳いだ海が放射能で侵される可能性はゼロとは言えないまでもそれに近いものになったのかな。芦浜の南島町は酪農も盛んなところだ。「命を大切に思う気持ちがお金に勝った。」正直そう思います。

福井を含めた北陸は、インフラの整備・持ち家率が高く住みやすさがトップクラスだそうです。それって原発で稼いだおかげ？違うんですって！原発を誘致しなかった地域では観光や地場産業がうまく行ってるけど、原発を誘致した地域では余りうまくいってないんですって。だから、「毒を食らわば・・・」なんてことになるらしいって。知ってた？

私たちが原子力の電気にノーを言わない限り、ことはいつのまにか運ばれてしまう。過激なことを忘れてしまった今の日本人にもいろいろできることはあると思うのですが・・・

そうそう忘れちゃいけない。この一連の反対運動で議員さんが2人も生まれたことを。他力本願ではなく自力本願の実証だね。こういう運動をみんなで応援しようよ。

お金より命を大切に生きていこうよ。



三重県芦浜から
大石琢照さん

芦浜の近くから来ました。去年の2月に、もうすぐ1年になるんですが、三重県知事が「白紙」ということで一応は止まっている状況なんですけども。この10年をふり返って、どうやって芦浜が止まったのか、止めたのか、それから、今の現地の状況ということなんですけども。あまり、話することがないんですよね。ただ、38年かかったわけです。38年いろんなことがありました。何年か前にも、この場で署名のお願いをした記憶もありますし、この10年をふり返って考えてみますと、その前からもそうですけども、芦浜原発に関してはいいのか悪いのか判りませんが、かなり圧力をかけて止めたというふうに思います。たとえば、表現は悪いけれども暴力であったりとか、あるいは、警

察の忠告を無視するようなという、要するに刑務所へ入れられるような行動であったりとか、要所要所でそういうことがあったということは確かであります。もちろん、そういうことがよいのか悪いのか判りませんが、そのおかげで、要するに環境影響調査とかそういったものを阻止することができた。で、そのなかの一つとして署名があったと思います。署名は、もちろん民主的な集め方をしましたし、重複のないようにチェックもしましたし、そういうこともやって集めさせてもらったわけなんですけども。8万の署名というのは三重県の有権者は141万人ですので、三重県の過半数です。16才から19才までの未成年も三重県民の過半数を集めましたし、芦浜から30km圏内の過半数の市町村から過半数というか80%以上集めてますし、南島町内でも90%の署名を集めてます。この署名というの、ものすごい圧力、行政に対する、それから県議会とかそういう選挙で上へあがらなアカンようなそういう人に対する圧力やったと思います。そのあと知事が「3年間考えさせてくれ」ということで、3年

間が過ぎて、その間、東海村でああいう事故があったということもあって、「今推進なんていうことは絶対言えないなあ」ということも聞こえてきましたんで、おそらく知事の発表は「休止期間をもう少し伸ばしたい」つまり「もうちょっと考えたい」と言うか、もう「白紙」と言うか、どちらかに違いないということは判ってました。去年の2月22日に知事が「白紙」と言いましたが、そうなったら、南島町はどうなったんかという、その前日ぐらいから知事が白紙と言いそうだということは判ってたんです。ただ、いつも我々は騙されてますんで、行政とか、あるいは電力会社とかがいつも騙すもんで、どうせ騙されるだろうと皆が思ってたんです。マスコミの情報なんかもかなりいい加減な情報があったりして、その気になるといつもがっかりするんで。今回ばかりはその気にはならずに行こうということで、皆で県議会を傍聴したわけです。そうしたら、白紙にすべきだということになって。で、南島町としてはその翌日かその翌日、原発をもうずっと頑張ってきた、たとえば生まれたときに芦浜計画が浮上して、そして自分が20代の後半ぐらいになってからやっと頑張りだしたという人たちが結構いるわけですが、そういう人たちが「次は何したらええんやろ」と言うわけですよ。「もうせんでもええやろ。もうええぞ、しばらくせんでもええぞ」と、こういうふうに言っとったんですけども。確かに、芦浜原発はかなり終わりに近づいとると思んですけども、まだまだ完全に終わったとは我々は認識してないんです。というのは、昭和38年の終わりから39年にかけて芦浜計画が出て、それから数年後に当時の知事は「白紙や」といったんです。「凍結」という表現をしたんですけども、それから何年か後に、10数年たってからまた解凍されたわけです。そういうことがあるんで、まだまだ、つまり、土地は中部電力のものですし、それから、いろんな推進派はまだ動いてますし、電力のいわゆる「工

作員」と僕らが呼んでいる人らは現地へちよろちよろ入ってますし、それから、まだまだ終わってはいないなというふうには思とるんです。どっかでは「もう終わったかな」と思とるんですけどね。そういうふうに「まだまだ」と言い続けとらんと不安なんですね。終わったとなるとだらけるんです。だから、完全に、もうちょっとしたもので、つぶしてしまわんといかんと思ってますんで。だから、まだまだ頑張っていくつもりです。

それから、現地では、たとえば、都市部ではもうちょっと高尚な言い合いをするじゃないですか。都市部の人たちは。たとえば、エネルギーがどうか、こうとか、お話しするじゃないですか。我々はそういうことはあまりしないんです。ややこしいことは覚えたくないもんでね。いつも言うのは、都会の人らというのは、結構いろいろなことで、頭の良い人らも結構あるし、頑張ってくれとるわけですが、現地は現地で腕力のあるやつとか一杯あるわけですよ。役割分担だと僕は思っているわけですが、だから、よく、学校の先生とか、大学の教授さんとか、そういう人がよくやって来るわけですよ。それで、よく話をするわけですが、「お前らな頭使えよ」と、僕らよく言うんです。「俺らは体使うとるので、お前ら頭使えよ。頭を使えるうちに使えよ。それで、使うたやつで、その情報を簡単に我々にくれ。そうしたら我々はしゃべれるやないか。もちろんこういうことも、するかもしれんけども、これもあつたら強いんや。そやから役割分担や」と。「お前らに暴力ふるえと言ったって無理やろ。だから連帯や」と、「つながらなあかんのや」ということでやってきたんです。

これから現地で今どういう状況かと言うと、我々の所の話し合いというのは、そういう難しい話ではなくて。「そんなら、お前ら活性化はどうするんや」とかね。「そんなら、お前ら高齢化はどうするんや」とか。「そんなら、子供はちょっとしかおらへんのに、過疎が進ん

どるのに、どうしてくれるんや」とかいう議論しか出てこんのです。田舎では。それに対して我々はじゃあどう言うかと言うことですよね。で、大学の先生らに「どうやって言うたらええのや」と言うてもなかなかピシッとする答えが返ってこん。「そんな都会の言うことに惑わされてはいかん」とかね、こう言うわけですね。そこで、我々、皆で集まって考えたんですわ。その、県会議員の人らも私らに聞くわけですね。「じゃあ、あんたらどうするの、原発抜きに」とかね。どうすんのかいろんなことを聞いてくるんですよ。そしたら原発反対のもう70才ぐらいの人は「そんなもん。お前ら給料をもらっとるんだから、お前らが考えるよ」と。それでもちょっとまずいなあと、自分らで答え出さなあかなあということ、それで、過疎化ということ調べてみるんですよ。そしたら、芦浜の現地の南島町という所は過疎化が進んどるやないかと言われるわけですね。過疎化というのは元があるから過疎化なんですよ。元があって低くなるから過疎化なんですよ。元の人口は1万5千人あったのに、今は1万人しかいないから過疎化が進んだというわけですよ。じゃあ、元は何なんやというと、昭和30年の4月1日を元にしてますと。まてよ、おかしいやないかと、何で昭和30年なんやと。要するに4つの町村が合併して南島町になったわけですね。ということは、もっと前を見ようということ、前を見てみると人口が下がってるんですよ。ズーッと考えて、いろんな人に聞いてみたら、疎開なんですよ、第二次世界大戦の後の。だから、人口6千人とか7千人とかの時からズーッと1万5千人ぐらいまで上がってる。と言うことは、元が悪いんや。人口は正常化に向かっとんだ。しかも、今、人口は止まりかけてきている。人口はこう来たけれど、止まりかけて来とるんですよ。

次に、高齢化、高齢者、年寄り殺したたらええやないかというのは無理、それは無理。でも、都会と田舎の違いはねえ。漁師なんて

いうのはね、80才でも90才ぐらいでもね、毎朝漁に行く者がいます。80代で漁はもう大変やけども、そこら辺のワカメやそんなんを拾うて住んでいる一も一杯おるわけですね。畑仕事しとる人たちもいる。自給自足できるわけですね。これをどう使うか。要するに年寄りにどう働いてもらうか。何で年寄りを60や65才で休まさないかんのやという話をしたわけですね。働かさなあかんという話をしたわけですね。そうするとね、たとえばね、僕らがそれに気づいたのはね、ある年寄りのおかげなんですよ。その人は99才の網元の一番親方の引退した方です。もう歩くの大変やいうので、若い20代の漁師にこう抱えられて歩いてくるんですよ。ピシッとして西部劇に出てくるような帽子をかぶってね。ヨボヨボですよ。やってきて「オイッ、ご苦労やな。原発、ご苦労やな」というて、若いもん魚を出させて「これ食うといてくれ」と言うて帰っていくときに、うちにおる20代の若い女の子に「オッ」と言いながら、階段を降りていくときに、ピュッピュッとお尻を触っていくんですよ。それで皆から「セクハラじじい、セクハラじじい」と言われてたんですけども。その人がね「俺は百才まで生きるから、そのつもりでおってくれ」と若い漁師に言うたんですよ。で、百才になって、数日後に孫みたいな若い漁師を呼んで、紙と鉛筆を持ってこいと言うて、紙と鉛筆を持ってこさせて、「何かわからんけども、あのじじい、紙と鉛筆を持ってこい」と言ったんで持っていった」と。翌朝ね、起きたら、死んどったんですよ。枕の下にね「ありがとう」と書いてあった。それで思たんですよ。「やっば、働かさないかんのや」ということで、よし、これでやろうと。だから、これで高齢化は解消。

次にねえ、少子化ということがあるわけですよ。子供が少ないという。これはねえ、もう皆に「生め」、これしかないですよ。とにかく「生め」しか言えんぞ。で、「生もう」と。「もう俺は無理やぞ」と言いながら、やるわ

けですよ。「わしも、もうちょっと無理かもしれん」と言いながらも。そうするとね、増えてきたんです。ポコポコと、ちょっと増えた。たまたまかもしれんけども、ちょっと増えた。でまあ、そこそこ解消。

あとはねえ、活性化ですよ。 「活性化」というと、辞書で引くと「分子が著しく動くこと」とか書いてあるけども、ようわからん。活性化って何なのか。そこからが問題なんですよ。都会でいう「活性化」というのはちょっと違うぞ。「活性化」を考えようやということで、今それを、原発に使うた力を全部ね、そっちへ持っていこうとしとるんですわ、僕らは。でね、楽しい。原発はあきた。楽しいんですわ。だから、もちろん、81万の署名を集めるときに皆と誓ったのは、「皆に助けもらったのやから、助けてくれと言われたらすぐ行こう」と。絶対、我々はそう決めてますんで。「力になれる」と、まあ、そんなにすごい力になれるかどうか判りませんが、原発に関しては我々も忘れずに。確かにね、だんだん忘れてしまうんですよ。忘れずにね、しばらくやっていこうと、それから町の活性化というものを作っていこうというのに力を注いでいこう、というのが南島町の現状です。



福井県美浜から
松下照幸さん

先ほど二人の方のうらやましいお話をお聞きしたんですが、美浜ではそんなふうな話はできませんので勘弁願いたいと思うんですが。美浜2号の事故が起きて早10年がたちました。あの事故というのは、現地においても大変な衝撃でありまして、推進側が「ECCSとかが働くななんていうのはあり得ない」と言っておりまして、「蒸気発生器

細管がスパッと壊れるなんてことは絶対ない」と言っただのが実際に起きたわけですから、本当に推進側の人たちも関電に食ってかかるという状況でした。事故に関するいろんな情報が入ってくるようになってきますと、何というひどい事故だったんだということが判ってきました。とくに働くべき機器が何力所も働かないというのがありましたし、原子炉内での沸騰を隠すために装置が動作しなかったということをして、そういうデータの隠蔽をしてきまして、そういうのを知るに及んで、どこかでチェルノブイリとは違って日本の原発はまだいいのかなと、心のどこかにそんな信頼があったんですが、完璧に吹っ切れて、日本でも事故は起きるんだということがあの事故を通して皆思い知らされたというふうに思っています。私自身、事故の連絡を電話で受けまして、すぐテレビを入れましたところ、午後1時過ぎだったと思いますが事故が起きて、6時頃のニュースで初めて知ったようなわけです。だけど、事故というのは常に隠されるということがありましたので、ECCSが働いて本当に事故が収束に向かっているのかというのがとても信用できなくて、心臓がドンドンするという状況になりました。全国からもドンドン電話を頂きまして、話をしているんですが、心臓の鼓動がひどくてひどくて、話をしても、むせてしまうというような状況になりまして、家族としてはちょっと逃げる準備まで始めたというのが、美浜2号事故の状況です。事故が起きた後もですね、何度も新聞記者とか見知らぬ人がドンドン家の中に入ってきてまして、いろんな情報を僕らの所へもくれたんですが、まんまと騙されるような情報もありまして、あの人、本当に新聞記者だったのかというのが後になって疑われるような人もおられました。運転員の操作をやった後のプリントアウトされたやつが、某社の新聞記者だという人から渡されまして、それを京大の先生達に見てもらってチェックしてもらったんですが、どうもこれはウソだという

のが判りまして、そういう意味ではああひどい人たちもいるなというのが事故の直後に感じました。そういうのを通してですね、チェルノブイリの直後には僕らもこれが美浜町の未来だということで僕らもすごいショックだったんですが、それでも美浜2号事故が起きるまでは、いやまだ関電の原発は大丈夫なんじゃないかという思いもどこかにありまして、非常にのんきな反原発をやっていたんですが、チェルノブイリ事故以降、それから美浜2号事故以降、真剣に勉強をし始めまして、そういうところに若狭ネットのメンバーと出会うということになりました。僕は畑いじりとか、山へ行くのが大好きで、土日はいつもそうやっていたんですが、土日になるといつもそのメンバーの人たちが誘いをかけてくるんですね。ちょっと、逃げようかなとも思っていたんですが、一生懸命な姿を見まして、だんだん、だんだん仲間に入って行くという状況になりまして、今は私の畑も荒れ放題と言いますか、なかなか仕事ができません。そういう中で、印象に残っているのは、二つの県民署名をやり遂げたということですね。「福井県にこれ以上の原発はいらない」という県民署名と「もんじゅを二度と動かさないください」という県民署名をやりまして、20万人を優に超える署名を獲得できました。それが一番、僕の中で印象に強いものです。土日に泊まり込みで、県庁のある福井市の方へ行ったり、武生市の方へ行ったりするんですが、月曜日になると頭がガンガンしてまして、火曜日になるとちょっと戻って水曜日に平常心に戻る。初め何でこんなに頭がガンガンするのかなと、初めは気がつかないですね。よく何回かやるうちにこれは署名をやっているからやらないかなということが判って、月曜日は本当に胸が悪くなってね、頭がガンガンするぐらい。そういうのがありました。

美浜事故以前は数名のメンバーと敦賀市でやっていたんですが、美浜2号事故が起きて初めて、自分の村200戸ぐらいの集落な

んですが、そこに初めて新聞のピラ入れをやりました。それは本当に初めてでありまして、私と上の娘、嫁と下の娘が二手に分かれまして、夜を待って、おそろおそろ、入れに行っただけです。美浜2号事故当時の僕らの存在というのは、そういうものだったですね。

ところが、今はもうぜんぜんそうではなくてですね、いろいろと話を聞いてきたりとか、原発労働者が僕の所へ訪ねる場合もあります。そういう信頼関係ができてきたと言いますか、そういう時代が変わってきました。これはもう僕は本当にうれしく思っています。その後、また、もんじゅの事故が起きて、あの事故を見ておりましたらですね、これは本当に殺されるという思いがありまして、議会は何をやっているんだという思いがあつてですね、以前から、もう10年以上前から誘われてはいたんですが、性分に合わないということで断っておりまして。その事故の後、議会へ挑戦するということになりました。これは私だけではできなくて、家族が決意したわけでありまして、本当に大変な選挙でした。しゃべるとちょっと涙が出そうになるので、もうやめときますけども、大変でした。でもかなりの票を頂きまして、真ん中ぐらいで当選することができました。そういう意味でも、美浜町の人たちの意識が本当に変わってきたなというのがあります。

で、議会に入りましても、一般質問をやるんですが、時間の持ち時間のうち40分ぐらい、議会で、原子力の問題であるとかを、町長、課長あるいは今、職員が傍聴しているんですが、そういう人たちに向かって原子力の講演会みたいな形で40分間ぶっ続けにしゃべるんです。そういうのをやって、もうほとんど再答弁ができない時間になってしまうんですが、それでもヤジ一つ飛ばないという美浜町議会の状況があります。もちろん、ヤジが飛んだら、私の方から直接また後で質問に行きますが、一辺もまだないです。そういう意味でも、皆、結構判っている。ただ、今までの地方自治の

やり方をやっているとしても財政が圧迫されてきて、それに権力の側がずっとうまい話ばかりしてきたので、それに乗っかっているというのがあるんですが、本音としては原子力は駄目だというのが、議員であってほとんどの方が思っているのではないかと考えています。

その後、僕も本当は先ほども言われましたが、原子力ばかりやっているといやになってきまして、地域を何とか元気にしたいというのもありまして、来月の3月で会社を辞める手続きをとりました。美浜町で山菜を育てたりとか、森が好きなので宿泊施設を作ったりする事業を家族で始める決心をしまして、4月から準備を始めます。また、よろしかったら、暮れぐらいには建物が建つと思うんですが、私の好きなことをしながら、原子力の問題もやるということに今後の私をかけています。

あと、原子力産業が本当に衰退する時代に入ってきているというのがはっきりわかる時代に入ってきてまして、それを考えるだけでもワクワクしてきます。マイクロガスタービンとか燃料電池なんかの技術が結構進歩してきてまして、先日もNHKで2回放送されておりましたが、おそらく電力会社としてはですね、もう尻に火がついたという状態になったのではないかと私は考えています。そういう中で電力の自由化が部分的に始まっているんですが、その中で定検短縮がすごい形で進んでいまして、そこで働く人たちの手抜きもありますし、昼夜連続でやりますので非常につらいんですね。それで、原発労働者の方が僕の所へ来られて、「この状態を何とかしてほしい」と、「一般質問で言ってくれ」ということまで言ってきてまして、一般質問でやりました。で、そういう状況になってきておりまして、逆に言いますと事故が非常に起こりやすいという状態になっているのではないかと考えています。我々のところでは、絶対に手は抜けないというふうに私は思っております。

それから、今、政府がすごい借金を抱えておりまして、その借金の8割が地方へ出ているという実態になっております。ですから、地方へ交付税であるとか補助金の支出がグッと圧迫されてくるというのが見えてきました。ですから、それに何とか対応しようという自治体と、いやいやまだ原発に頼ってそのおこぼれに預かろうという自治体とが、原発立地町なんかでは出てくるんですが、美浜町なんかはまさにそうで、敦賀もそうなんですが、美浜でも「また原発を欲しい」という声がちらほら聞こえてきます。関電もそういうふうな動きをやっているんですが、毎日新聞で「関西電力は変わる」という連載記事が10回以上あったと思うんですが、その記事を読みますと、とても増設できるような実態ではないんですね。関電の社員向けに二つの冊子が配られまして、それを新聞報道していたんですが、それを僕も要求しておりまして、明日やっと関電の社員からもらう予定なんですが、良ければまたお届けいたします。本当に関電内部の厳しい状態を社員に向けてすごく説得している資料です。明日、手に入るようになっておりますので、もしよろしかったら若狭ネットを通して申し込んでください。そういう意味で、地方自治の財政事情が非常に圧迫してきてまして、美浜町も数年先には非常に危ないというのを行政の幹部から聞きまして、「だから増設したいんだ」という話をしたんですが、とんでもないという話をやりました。おそらくまた、3月以降、具体的な話が出てくると思うんですが、電力側はそんなにやりたくないと思っていると思うんですが、実際は、本当にもう土俵際の闘いで我々も勝負する時代に入ってきたなということを非常に強く思います。

大きな流れと言いますか、二つの県民署名をやってみて思ったことは、もう増設をしたり、もんじゅを動かしたりすることに対して福井県の世論としては「もう絶対駄目だ」と、世論としては圧勝しているという状況になって

きています。まだ時間はかかるかもしれませんが、時代が本当に大きく変わりつつあるというのは、現地では、美浜町で本当に、以前は孤独感を味わっていたものですが、今では、そういう時代がよく見える状況になってきておりまして、今では本当にわくわくする毎日をご過ごしております。そういう意味で、今後とも、皆さんとも都市部の皆さんとの運動を模索しながら、私自身は負けないように頑張り続けていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひします。



福井県敦賀から
増田 悟さん

敦賀から来ました増田です。この10年を振り返るテーマだと思んですが、私が敦賀に戻ったとき25~6才で、もうほとんど20年ほど前の話なんですが、敦賀2号炉の増設の話が出ていて、そこでデモがあったり、反対運動も少しはあったり。当時は総評でも社会党でもまだ元気な時代でしたから、そういう連中が動いて、目立つ反対運動もあったみたいな格好ですが。そこから20年経ってみると、そういうレベルでの運動はすたれてきたし、私たちも県民会議とか敦賀市民の会であるとかいう、割と組合を主体にした反対運動と一緒にやってきたという経緯があるんですが、ずいぶんそういう運動が難しくなって、逆に、若狭ネットができて、現地の人間も若狭ネットで結集して何かをやる、現地で何かをやるというのが主な活動になっているという、ある意味では、情けない話かも知れませんが。私の中では、もともと組合の人間じゃないんで、組合の人間と一緒に運動をやっていくということ自体ができなかった

という反省はあります。

敦賀3・4号炉の話になりますが、毎日新聞で最初の記事が出たのが1992年で、だいたい10年前。最初私たちは1993年頃新聞折り込みで敦賀市民に対してアンケートを取って、そのアンケートの結果を見て、「あ、これなら何かできるな」というようなことがあって住民直接請求署名みたいなことを始めようとしたんです。それは議会で蹴られたというか、否決されて、そのあと県民署名につながって行ったわけですが、今県民署名が20万、大体両方とも取ってますし、当時の高木敦賀市長は「20万を超えた署名というのは、中学生も署名している。高校生も署名してるんじゃないか」と言っていました。今考えると、彼たちはすでに成人している(場内から笑い声)。すると、20万という数はわけの分からない中学生とか高校生じゃなくって、彼らが今でもそうやって思っていてくれるんなら、その数はすごく堅いものとしてあるというふうに私なんかは思います。でも、知事とか今の市長というのはこの20万の数字を忘れよう忘れようというふうな格好で、ここ2・3年しばらく鳴りをひそめて、いろんな事故があって、増設の話も、もんじゅも、表に出せなくてというところがありますが、ここへ来て敦賀3・4号の増設、あるいはもんじゅの運転再開というのが煮詰まってきています。取れるものを今のうちに取ってしまおうという、たぶん、栗田知事の思いがあるんだと思います。新幹線あるいは福井空港、そういうものと引き替えにして増設を認めていこうみたいな格好になってきていると思います。そういうのは誰が見ても取り引きだというのがはっきりわかるんで、それはあんまりしない方がいいんじゃないかなという気はするんですが、ほかに地域を活性化させるアイデアをたぶん彼らはもう、持っていないだろうと思いますね。ただ、新幹線にしる空港にしる、そうそう簡単に国がOK出せるもんでもないし。出せたとしても空港なんか反対運動が強くなってできそうもないんですけ

どね。栗田知事あと何年あるのか。2年かそこらかな。それまでに道筋を付けて、空港は栗田氏が知事になる前からの問題でしたから、そういうところへきちんとした道筋を付けて終わりたいという、どうしてそれが花道になるのかわからないんですけど。

今、3・4号炉は環境影響調査の準備書というのが閲覧されてまして、この間の16日までで終わったんですかね。こんどはそれの評価書というのを出してよいよ安全審査というところへ行こうとしています、そのゴーサインを知事とか敦賀市長がどの辺で出すかというのが、今度の議会が相当危ないんです。私は年に何回もないんですが、年にいっぺんあるかないくらいですけど、知事に会って話ができるという状態が何年か前にありました。会うたびに原発を最初を選んで30年たった福井県が最初にやめていくべきなんじゃないかという話を機会があるたびにしますが、どうも福井県は最初に始めて最後までそれにしがみついていくんじゃないかという気がしてまして、さきほどの芦浜の方とか日高の方みたいに、これから先まだ何十年か明るい未来という所にたどり着くのに、大変な気がするんです。30年たっていますから「時効だよ」って言ってもらえるまでにひょっとして30年かかったらどうしようかと、それこそ世代を越えてしまうような話になるんで。

原発現地はどこでもそうでしょうし、どこが最初にやめていけるかみたいなことは、たぶんどこでもなるべく引っ張って、現地の行政とか事業者とかはなるだけ引っ張りたいたらと思うてますけど、やっぱり本当は先鞭付けたところが最初にやめるというインパクトは欲しいなあと思います。その前にたたけるだけたく。みなさんの力をお借りしてたたけるだけのことはしたいというふうな気はしています。

福井県三方から 石地 優さん



こんにちは。三方から来ました石地と申します。

私はこの10年、おかげさまであち

こち行って福井県のあちこちで住民の皆さんの話を聞かせてもらえる機会も多くありましたので、そのことについてお話をさせていただきます。

私はこの若狭ネットに接する機会があったのは、若狭ネットができたすぐの頃に、先ほども報告がありましたが、若狭ネットの大阪とか関西の方から美浜の現地にビラをもって来られて、そして各戸を戸別訪問されて、それでそれ終わったあとにどっかの場所に集まって、その報告集会と言うんですかこれこれこんな話があってこんな状況やったというのに参加させてもらったのがきっかけです。その時ちょうど僕は、美浜事故があったので、今度の夏のマスコミや新聞では今度の夏の、その年の海水浴ですね、もうガタ減りするんじゃないかなという話もよくあったんですが、それで、ほんなら、水晶ヶ浜というんですが、その海水浴場に来られる人はどんな感覚を持って来られるのかなと、そういう興味もありましたんで、そしてまた聞いてみたいこともあったんで。その夏に水晶ヶ浜に来られた海水浴の方にアンケートを、勝手なアンケートの内容をこっちで決めたんですけど、アンケートをさして頂いて。それでほぼ100の方に聞いて、ま、それも勝手にこっちで聞けるもんですから、年とか男の人とか女の人とかこっちが勝手に選択できるもんですから、年代も若い方から年寄りの方とかいろいろしたつもりなんです、結果も出たんですけど、そのことについて結果出て

るのにどこにも発表するわけでもなし、どこでも使うわけでもない、そういうアンケートって一体なんやらかとよく言われたこともあるんですけど。別に発表したいわけとかいうつもりで、思ったわけじゃないんで、自分としてどう感じられるかなっちゅうことがあって、さしてもろうたんです。

今日の福井新聞で、原発の世論調査の結果が出てまして、廃棄物の処理場、処分場を自分の住んでるところに作ったらええかどうかという質問がありまして、その項目の中で答えられた方の90%が、原発に賛成している方も含めて、90%を超える方が自分のところには作ってほしくないというアンケートだったらいいです。

それで僕も美浜の事故があったときに、来られた方にまず最初に聞いたのは、もし原発が必要で自分の地域に原発を作ることになったら賛成されますかという質問したんです。そしたら、その時でも8割の方が自分のところにはつくってほしくないという回答になってます。だからその回答も今日の処分場の回答もやっぱりいやなもんはいややということは共通してるかなというふうに思いましたけれど。

それはそれとして。100人のうち1割が地元の福井県の方で、残り9割が、特に水晶ヶ浜に来られるお客さんは中京方面の方が多くて、岐阜とか三重とか、名古屋とかそっちの方のお客さんが中心で、高浜とかあっちの方は逆に、大阪とか神戸とかそっちの方が多いんやと思いますけど、美浜の水晶ヶ浜はそっちの方が多くて、それで一番最初に心配してたのは、こんな質問しても答えてくれるのかなちゅうのが、一番最初心配してたんですが、その心配はみごと良い方に解消成りまして、皆さんほとんどの方が積極的に、こっちが勝手に思ってるだけで本人はそう思っていないかもしれませんが、まあ、こっちが思うに、積極的に答えてくれました。

で、その中身ですすね、積極的にというのはただ単にアンケートに答えてくれただけじゃ

なくて、それ以外の話もいろいろしてくれてまして。若い男の人女の人、家族連れ、それからカップルで来られている方、それから個人で来られている方あるんですけども、さっきも言いましたように年代別にせなあかんかったんで、カップルの方の男の人、女の人にも無理矢理、間に入って行って、アンケートも取らしてもらいましたんで。それでも、いやがられるかなと思ったけど、女の人の方に聞きに行っても、男の人の方に聞きに行ってもいやがられることはほとんどなかったです。ほとんどちゅうか全然なかったです。

だから、そういう意味からして、原発の問題ちゅうのは町の人にも何と関係ないわという形だけではないのかなという気はしました。

それともう一つそこで印象に残ったのは、30過ぎくらいの男の方やったと思いますけど、その方は電力会社関係のところに勤めておられる方でして、ずーっと質問してたら、まあ最初は質問に答えてくれてたんですけどあるときになってきたら、「ちょっと待った」って言われまして、何かなと思ったら「あんたの質問は誘導質問してるみたいや。あかんよ、あかんよ。答えさせるような誘導質問されるアンケートの方式は、こんな、あかん」ちゅうて言われまして。まあ、僕反対してるさかいそういう気持ち入ってるかもわからんけど言うて。自分は電力会社に勤めとるんでいう話もその時言われて。それでもその話そこで収まって、次の質問に行ったんですが一番終わりにお上を信用しますかという質問入れたんです。その質問したら、もう完全に怒られまして。「もう、知らん。もう、せん」と言われまして。ほんで最後に言われたのが「あんたみたいな人がおるさかいに、電力会社にとっては原発進めるときに困るんや」と言われまして。「ああ、ほんならええことしたんやな」言うて(会場から笑い声)、これが一番印象に残ったアンケートだったんですが。

ちょっと前置きが長くなりましたが、さっき

からずっと話ありまして、もちろん地元の僕は三方ですから、三方の方、隣、さっきの松下さんとこの美浜町やら、増田さんとこの敦賀やら大飯、高浜、それから嶺北の方まで含めてですね、若狭ネットの方がそうやって戸別に入るとええなあって話をこっちにも教えてもらいましたんで、その機会を通じて自分なりに話して、県内のどこの場所の人でも、町の人とはまた違う面があるかもわかりませんが、原発の話については、胸に残っているもんが必ずどっかにあるというのが、大小あるかもわかりませんが、それは行くところ行くところで感じました。あの、三方と美浜で比べると、三方は原発が立地してないんです。場所は隣で、あのう15 km圏内には入っているんですけど美浜の原発から。立地してなくて。美浜町は立地してるんです。署名、どんな署名でもそうですけど、行くところですね、もちろん美浜町の方がずっと署名もらえる数が少ないです。三方町の方がずっと多いです。

住んでいる人の反応もですね、やっぱり美浜町のところ行ってするといろんな形で、嫌味言われることも、三方に比べるとずっと多かったです。それでも三方と美浜の違いというと、美浜町の方は全員ちゅうわけないんですが嫌味言われる方おられますけど、中身、話される時の中身の話が、僕自身が聞いてると重たいというか、その人自身が抱えている問題を感じる話が、たくさんじゃないですが、感じられる部分が三方町と比べると美浜の方が多かったです。これは敦賀市と比べても、僕自身感じる分からいくと美浜町の方が重たい話をしてくれる人が多かったように思います。まあ敦賀の場合には人口も多いからそこらへんのところ広がりがあるからかもわかりませんが。そういう意味でさきほどお2人の方からも話がありましたけれど、福井県の方はそういうところ踏まえて、増設はしていかないというのはもちろんのこと、原発に対してもいい思いを持っていないというのはそれでよく感じられました。

ところが今の行政サイドですね、知事とか市長とか各県会議員、市会議員、町会議員とですね県民とのギャップがものすごく大きくて、これが、さっき増田さんのはこれから30年という話されてましたけど、そのの所をなかなか埋められないところになってるんかと思えます。

それで今回の増設とかもんじゅ再開の話についても知事とかはかなり進めていながら、はっきりした態度という形になっていないような返答してますけど、現実的には福井県の経済界とか地元の方では商工会議所とか、そういうところは完全に、もう今景気が悪いし金が入ってくるものを見つけなあかんちゅうことで、そのために推進を表明してます。

だから、そこんとこの差がどうやって埋められるんかというところがこれから、大事なというか、ポイントになってくると思うんですけど。

原発のことよく思っていない、またこんなもんない方がええと思われる方はたくさんおられるんですけど。それじゃ、その方たちが表に立って声を大にして知事とか市長、議員に対してそういうことをちゃんときちとした形で言ってくれるかということ、悲しいかな、今そのことで仕事を抱えているしがらみもありまして、なかなかそうできないという現実があつて。今日福井県からたくさん来られているんですけど、ここだけ見ると「あつ、福井県は地元に戻ると市民の反対する人、もっとたくさんあつて、大丈夫やな」と思われるかも知れませんが、ここに来られている方は総動員がかかっているんです（会場大きな笑い声）。勘違いして頂けませんように。

若狭ネットの方でさっき戸別の訪問されたり、署名に対してものすごい積極的な取組をしていただいたり、そこら辺は今度の3・4号炉増設にしても、もんじゅにしても、まだここまで止まってきてると、この大きな力になってるとい風に、僕らも思えます。

もう10年もたってますんで、顔ぶれもたぶん

10年全部年取ったんやと思います。これから年取って先、足腰立たなくなるという話がありました。なお大変なこと、体力的にも大変な面があるかもわかりませんが、せめて口だけでも（会場大きな笑い声）。

今年の時期は、ものすごく厳しい時期かと思しますので、景気の悪いことも合わせて、今までにも増して一緒にやっていただけるようにまたお願いしたいと思います。

それだけじゃなくて、知恵の方も、知識の方もいっぱい注入してもらって、ただ知識はいっぱい入れてもらってもそのまま残ればいいんですけど、出ていく分が多いもんですからなかなかうまくいかない部分もありますけれども、やっぱりピラとかそういうので、さっき言いました戸別対話とか通じて、そういうのが県民に伝わっていくというのが、この間の感じで、即目に見えてこんかもわかりませんが、一番効き目があるのかなというふうにこの10年間で感じましたんで、またそこら辺のところよろしくお願いします。ありがとうございました。



福井県小浜から
池野正治さん

小浜の池野といいます。大飯、高浜のことをしゃべれということだったんですが、小浜にいても実は大飯、高浜に遠いもんで。私もさきほど松下さんが言われたように、1991年の美浜事故から原発にかかわるようになって、まだ日も浅いもので前のことはわからないんですが、この10年だけ振り返ってみても高浜2号機の裁判で、蒸気発生器の細管が非常に施栓率が上がって非常に危険な段階に至ったということで、あれでPWRの危険性がみんな広く知れ渡るように

なったんじゃないかなあというのが一つの、あれは事故には至りませんでした。高浜2号機の裁判。

それとあと、美浜事故が起こったちょうど4年後に1995年の2月に大飯2号機で細管が、破断はしてなかったんですが大きな放射能漏れ事故を起こしまして、小浜におって知らなかったら久保きよ子さんから電話いただいて、「あんた知っとんか?」。全然知らなくて、都会にいる人の方が先にキャッチされる。あれも美浜事故と同じようにECT、渦電流探傷装置というやつですが、ECTで検査しながら見つからなかった。それでいて、放射能漏れを起こして、ヒビ割れを起こして貫通したんです。美浜1号機と同じ事が大飯2号機でも起こったわけで、もう少しで破断するところだったんです。

そういう事故があって、関電もやっぱり冷や汗をかいたと思うんですけど、それで蒸気発生器を、古いのを全部交換し終わって、あと压力容器の上蓋ですね。これの交換、これも全部終わりました。それで一応関西電力としても、おそらく内心ホッとしたんじゃないかなと思うんですけど。

それとあと、一番大きなのが去年、おとこのプルサーマル計画ですけれども。高浜4号機にプルサーマルが始まるということでイギリスのBNFLという所で最初のMOX燃料8体を製造したわけですが、それを持って来たんですけども、持ってくる輸送の途中でデータが改ざんされているんじゃないかという、これは高浜4号機が一番最初の予定で、それ運んできたんですけども、その後すぐ高浜3号機の燃料も作ってあったわけです。そのデータが改ざんされているというのが発覚して、「今日本へ向かっている4号機用のMOX燃料もおかしいんじゃないか」ということが発覚したんですけども、もうすでに日本に向かっているものでいやいやそんな事はないということで、通産省と関西電力が一緒になって最後

までウソを押し通したわけなんです。おとしの12月にデータがねつ造されているというを認めてご存じのように装荷が中止になったということです。それ以降、未だに高浜4号機のプールの中に8体残したままで、一応これはイギリスへ持って返るということになっていますけれども、どうなるかわかりません。

そういうことで、日本で最初に商業利用は関西電力がやるということだったんですが、これでけつまずいて、東京電力がご存じのようにトップバッターになるところだったんですけれども、福島の前も佐藤知事が「ここらで日本の原子力政策をもう少し腰据えてゆっくり考えてみたい」ということになって、ちょっとまた福島も延びそうですし、柏崎・刈羽の方も知事が、市長さんでしたかね、ベルギーの工場に視察に行くとかいうことで、またこれも延びそうなので日本のプルサーマル計画は最初からけつまずいたということで。そういう意味では、高浜のこのMOXのデータ改ざんというのは大きかったんじゃないかと思います。

高浜の場合はそれ以降、それを受けて町民の方が投票条例、プルサーマルを实际やるかどうかということで投票条例を制定してほしいという直接の署名を始めたわけです。まあこれは有権者の、あれは4分の1くらいでしたかね。議会にかけられたんですけれど。これは否決されたということで、その後町長選挙があったんですが、そのときに保守系の方なんですけれど、議員さんの方で、その時にプルサーマルは町民は、さきほども石地さんの話にあったように、お上が決めたものがそのままトップダウンで降りてくるというそういう地方の政治に対して、やっぱりこういう問題は町民が自らの意志でやっぱり決めるべきだということで、保守系の議員さんが議員を辞められて町長選挙に立候補されたんです。その方とも話してみたんですけれど、比較的若い方ということで頑張られたんですけれども、現職の町長が再選されました。結果は再選ですが、これは実

はもう一人有力な町長選挙に立候補された方が実はとんでもない方で、それで町民の方はとんでもない方が当選したらよけいに高浜町がひどくなるということで、それだったら現職の方がましだろうという町民の判断が働いて再選されたという風に、地元の方はそういう風に分析されています。

それで、町議員を辞められて立候補された方は非常に少ない投票で終わったわけなんですけれども、そういう意味では高浜町の良識というのでしょうか、町民の方のそれは生きているという風に私なんかは見ています。ただ、高浜町にしても、大飯町にしても、関電の城下町ですし、そういったボスが支配している構造がありますんで、なかなか町民の方が思っていることを表に出せないという、そういう現状があります。特に、大飯町の場合はそうですし、そういう中で隣の小浜町というところは比較的声に出しやすいということもあって、私なんかは細々とやっているんですけれども。そういうことで、高浜町はプルサーマルでの投票条例がつぶれて、それ以降反動というのがあったのかも知れませんが、やってるときも締め付けが非常にきつかった所ですし、ということでその後は動きがありません。

それであと、小浜のことなんですけど、ご存じのことかと思うんですが、今小浜の商工会議所が動いて小浜に使用済燃料の中間貯蔵施設を誘致しようと、割に必死になって動いています。これはご存じかと思いますが、小浜市というのは今まで大飯町とか高浜町に入る前に原発誘致ということで、ずっとあった所で、私なんかは新参なもんで当時のことは聞かただけでしか知らないんですが、小浜の方たちが必死の思いで原発誘致というのを阻止してきたところなんです。しかし、結果というとなんなんですけど、目の前に大飯原発というのがあるんですけど、ここに4基巨大な原発470万kwになるんですけど、これができたわけなんです。小浜でその誘致をしていた人たちはず

っとそれであきらめたわけじゃないもので、原発の目がつぶれた後は火力発電所の誘致も動いていましたし、それはつぶれて、今度は中間貯蔵施設を誘致しようということで、3月末が一応手をあげる期限になっていますので、今それに向けて必死に工作しています。この商工会議所の裏にいるのが市長です。これは去年無投票で選ばれた人で、もと県議の方で県議時代から着々と小浜に原発誘致のために動いていた男なんです。今市長になって、市長が動くわけにいかんもんで、商工会議所が動いているですけども。もうこれも、小浜に中間貯蔵施設が実際に誘致されるかどうかは、その可能性はいろいろありますし、とにかく手をあげようとしているのが現状で。先日も15日に京大原子炉の中込という男を引っ張ってきて、中間貯蔵施設の勉強会ということをやっていますけど、これは誘致のための打ち合わせみたいなもんで、この中込というのはもと科技厅の役人です。それで安全委員会の原子力安全基準専門部会の中に中間貯蔵施設の安全審査指針の検討分科会というのが去年の12月にできたんですけど、その有力なメンバーです。そういう男を連れてきて、商工会議所は中間貯蔵施設の勉強をやったんです。ここでも中込というのが、「早く手をあげろ、誘致したいんだったら」と言っているんです。そういうことを言っている男なんです。そういう状態で、ちょっと緊迫した状態にあります。

あと、もう一点は、原子力防災の問題なんですけど、これは今度3月22日に高浜原発3号機で原子力防災を大々的にやります。去年は敦賀であったんですけども、今度は高浜でやって、京都府、舞鶴市、綾部市も参加しての訓練になるんですけども、やっぱり原発を抱えている現地としては原発があるということは原子力防災と同時に取りまななきゃいけない問題だと思いますので、おとし原子力防災の特別措置法もできて、今福井県の原子力防災計画が策定中で今月中に出来上がりま

す。それと同時進行で市町村の原子力防災計画が策定中なんですけれども、恥ずかしいことに小浜市、ほかの市町村のことはわかりませんので、小浜市は原子力防災計画をつくる能力もスタッフもありません。それをどうするかというと、民間のコンサルタント会社に丸投げしてます。そして民間企業がつくってそれを持ってきて、それを手直して、市の原子力防災計画をつくったという。そういうスケジュールになっています。そういう状態で、原発を目の前にして現地の人は暮らしているわけです。

そういう中で、難しい問題があるんで、共存、ある意味では共存しているわけで、その中で何ができるかということですけど、なかなか芦浜、南島町の方とか、和歌山の方がおっしゃられたように、笑い顔で「昔は昔だったなあ」と、そういう日が来るんかどうかと、そういう見通しも立たない状況が現地にはあるんで、これが非常に頭の痛い問題なんです。

それでちょっと福井県全体として、今度の県議会、2月の終わりからあるんですけど今回問題になるのがもんじゅの問題なので、今もんじゅについては福井県民会議が取り組んでいますけど、これに対する働きかけも若狭ネットの方でもお願いしたいと思うんですけど。

それとあと、敦賀3・4号機のことですけど、増田さんから報告がありましたように、これも今年大変なことを迎える、ピークになると思うんですけど、私もずっと去年、一昨年と、敦賀1号機の、ご存じのシュラウドという中の円筒形のステンレスの交換で、被曝の問題で何回も日本原電へ行って交渉もしたんですけど、その中で敦賀3・4号機のことをいろいろ話してたんですけど、現実には日本原電は迷ってますね。つくるかどうか。これは作りたいのは山々なんだろうけど、作れるかどうかですね。これは建設費がご存じのように8300億円という金額ですけど。この金額で作っても、誰も買ってくれないというところで。これをいかに削減できるかというのが建設できるかどうかのポイント

トになるんじゃないかと思ってます。現在、日本原電が、あそこは送電網も小売り部門もないので電力3社に買ってもらってるんですが、今8円80銭で卸しています、卸価格が。これを5円台にしないと買ってもらえない。だからそうするためにはどういうふうな方策ができるかということをも日本原電は必死になって考えてます。これが5円台に行かなければ日本原電は厳しいということを彼らは言ってますし、既に日本原電の社員の給料のカットが始まっています。そういう面からはかなり厳しいのではないかなと思います。

取り留めもない話ですけどどうもありがとうございました。



福井県今立から
山崎隆敏さん

どうも、ご苦労様。今まで話をした4人は原発立地してるところと、あるいは原発の隣の

市町村。僕は北陸トンネルから北の、原発とは関係ない(会場から笑い声)、あんまり力を持っていない、立地していない自治体の人間です。

今日、本当はもう一人武生市から女性の岡村葉子さんがみえる予定だったんですけど、都合がつかせませんでした。岡村さんは、神戸大学の橋本先生や京都大学の山田先生らを講師に迎えて小学校のPTA総会で、原発だけではなかったんですが地震の問題を中心にして最後に原発の話でしめるという後援会を半年以上かけて準備されました。その話をしてもらいたいなあと思ったんです。そのことを僕のニュースで書いて送ったら、大阪の方から

手紙もらって、「PTA総会でこんな原発の講演ができるなんて本当に素晴らしい。自分も努力してみたけどなかなかそれはできない」という文でした。実はそれ、マスコミにも伝えて取材するように言ってたんですけど、やっぱりああいうものは記事になりにくかったのかと思ってます。そういうことで、岡村さんは、原発の問題も日常生活の中で頭の中の一つに置いて、できるところでみんなに話を聞いてもらっていくという活動をやってますから、これからも、この形でやっていきたいからよろしくお伝え下さいというふうに言っていました。

えーっと、私はさつきからね、この10年の間を振り返ると、みんな大変だったなあと思うんですが、2回大きな署名活動をやって、最初は美浜事故の直後に美浜現地に入って、敦賀まで足伸ばしてという感じで始まったんですが、これを全県的な運動にしていこうということになって、最後は僕の家が泊まり場になってしまって(会場から笑い声)、久保さんなんかは布団をたくさん持ってくるし、炊飯器まで持ち込んで(爆笑)。

最近の嶺北の方の状況をお伝えしときたいと思います。やっぱり、増設の問題が持ち上がるとか、もんじゅの事故の直後はかなり嶺北の方でも住民あるいは議会の中でも、「もう、こりゃ、なんとかせなあかん」という機運が盛り上がったんですけど、やっぱり最近は、こう弛緩してきているというか、もうみんなの気持ちがゆるくなってきているなということがあります。ちょっと前ですけど、越前町、越前町も河野村も日本原電の対岸の町ですから、増設とかもんじゅに対して厳しい意見書とか反対決議をやってはいますが、その越前町の議長さんと会ったことがあって、「これからもよろしくお願いしますね」と言われたんですけど、「あっ、君が山崎か」という風に言われて、「いつまでももんじゅに反対しててどうするんや。政治家は引き際も肝心やぞ」と言われて、もう愕然としたんですけどそういう気持ち

の人達しか政治家にならないんじゃないあかなあと思うんですけど、そういう状況があります。ただ、河野村の村長さんの所は、何回か泊まりに行っている話したんですけど、ま、村長は去年の春に辞めてますけど、次の後継者も強い増設反対の姿勢示しています。住民もそうです。

ただ、さっきから何回も出てきますけど、これやっぱり松下さんなんか言ってるように、原発の増設というのは公共事業ですから、それに立地自治体だけじゃなくて、例えば、うちの町の県会議員なんかは土建屋さんで敦賀なんかでも車を頻繁に見かけるんですけど、彼なんかもそういう公共事業の一環として増設ということは今考えているみたいで、そういう動きをうちの町の中でもやっぱりやってます。うちの町会議員は18人いるんですけど、多数派がむこうに持って行かれてしまいました。ある程度対立してたんです。前の町長とね、県会議員が対立してたんです。前の町長が破れてしまって、今の県会議員が力を持ち始めた。そんなことがあります。それで、彼らの欲望っていうか、それが手に取るようにわかるというような気がしてます。

一方、住民側はそんな簡単に説を曲げるってことはないと思うんで。去年の秋に、35自治体のうち、うちの町が最後になつたらしいんですけど、日本原電の説明会。新聞折り込みされたらしいんですけど、僕は気付かなくて行かなかったんです。そのことをいつも来る刑事が「山崎さんなんで来なかった。あのとき婦人団体がいっぱい来て最後までしつこく批判してましたけど。もの凄く痛烈な批判してました。あれ、山崎さんの薫陶を受けた人達だと思うけど。日本原電側はとにかく『山崎が来る』というので、手ぐすね引いて待ってたらしいんですけど（会場から大きな笑い声）、主婦の人達も『なんか、敵前逃亡したんでないか』と疑ってるんで、あんた釈明しとかなあかなんで」って言われて「ああっ、こりゃ票を減ら

したかな」（会場爆笑）と思ったんです。

こんな状態で住民側はやっぱり相変わらずどンドン、そういう、何と云うか、反対の気持ちは変わらずにね、ただ、運動として参加していこうという、そういう所まで行かないのがなかなか難しいところだなと思うんです。

それと、空港と新幹線との取り引きということではいろいろと取り沙汰されているんですが、これに対しても県民は相当怒ってます。空港の問題なんかはやっぱり、坂井郡に空港があるんですが、北の方にね、あの辺の周辺だけの運動だったんですが、最近は武生の知人の所なんか行くと、今まで全然運動と関係ない人達が空港反対の署名を始めています。そういうものと取り引きするということでかなり県民は憤慨しているということがあります。

増設とかもんじゅの運転再開に関しては、やっぱり客観情勢がどうであろうとあるいは道理がどうであろうと、彼らはゴリ押しでしゃにむに進めていくと思うんです。それに対して、これからも、本当に、叩けるときに叩くだけの運動じゃ駄目なんで、どうしても我々がどんな形で止まろうと、阻止ができた場合でも、やっぱり住民の力で止まったんだということをみんなに自覚してもらおうような、そういう運動をこれからも僕らは造っていきたいなというふうに思います。

ま、そういうことでなかなか厳しいんです。手だてが全然ないというような所もありますけど。これ、まだ県内の人にも話してないんですけど、もし、福井県内で、福島県で1年半か2年くらい前から準備進めて、まだ実現はしてませんが、県民投票条例を、もしできるとしたらやってみたいなと、単なる案ですけど。だいたい35自治体でこれくらい集めればいけるという数字を書いて来ました。そういう議論を県内でもやっていきたいなと思います。

ということで、簡単ですが終わります。どうも、ありがとうございました。